

20

No. 20
2004・11・20 発行

放送人の会

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階

Tel & fax 03-3221-0019 Email info@hosojin.com

代表幹事 大山勝美 編集担当 伊藤雅浩、松尾羊一

番組は個人の情熱からはじまる

第四回日韓中制作者フォーラムに参加して

大山勝美

国際会議は、会合の成果もさることながら「めしうまく、景色も接待もい」と参加満足度は高くなる。

十月十七日から二日間、中国・揚州で開かれた第四回「日・韓・中テレビ制作者フォーラム」は私にとつて十点満点で八点台の満足であった。

揚州は鑑真和尚の出身地で、揚子江の水を引き込んだ川や運河とともに発達した古都である。上海から四年前にできた高速道路を、車でとばして四時間。南京から一時間半の距離にある。駅はこの五月に完成、北京から十二時間かかるという。

フォーラムを終つて、柳が水面すれすれの水量ゆたかな湖を、屋形船でゆっくり遊覧して、かつての王侯貴族の気分を味わえた。

江沢民の誕生地だけに、自動車などの外国企業が誘致され、緑も多く、道幅もいろいろ、人々もゆっくり歩き、建物も洒落っていて、どこかヨーロッパ都市の雰囲気を感じさせた。

揚州料理は、中国四大料理のひとつ。脂っこくなく味は洗練され、野菜

と魚料理が種類も多く、流石に宫廷料理、飽きることがなかつた。

市の西南、ひときわ高い二十階建てのホテルに全員泊りこみで、フォーラムは行われた。日・韓それぞれ二十五名が、中国は北京のテレビ芸術家協会のメンバーを中心に五十名ほどが参加。メイン会場はカラフルな大看板が掲げられ、小型クレーンを含め、中継テレビクルーが入りこんでいた。

「番組視聴」と「シンポジウム」が会合の柱で、ドラマは「家族」、ドキュメンタリーは「環境」、バラエティは「青少年」がテーマである。

内容や表現は、三ヶ国雰囲気は似ていって、十数年まえまでのレベルの差は、まったく感じられなかつた。当然、日本に学ぶという姿勢も消え、自信をもつた対等の立場で「合作を」「共同制作を」と、堂々と主張していた。

ドラマでは、中国の何人かの孤児たちを親代わりに育てる女性の生活を綴ったもの、幼稚園児を十四ヶ月かけて追いかけたドキュメンタリーが印象に残つた。

第一回目、関釜連絡船上。二回目対馬。三回目、韓国・濟州島。私はこの

韓国の中には、家の建てかえ期間中に、男女大学生がにわかに同棲生活する様子を、コメディ調で描いたドラマが快テンポの軽妙さで光つた。

日本側参加者はNHK、民放、プロダクションとバランスがよく、当会のメンバーは六名。国際フォーラム初体験組も多く、当初戸惑つた様子も次第に解け、急速に「日々交流」が進んでいったと思う。

NHK側参加者の河野尚行氏は、中國側から反日運動が万一話題になつたときのために、一日がかりで勉強されたというが、国際会議のとき、韓国側から定期便のように出される日帝支配の話題を含めて、二件ともまったく触れられられずであった。

このフォーラムは、四年前韓国と離れて近い九州のテレビ制作者たちと韓国プロデューサー鄭秀雄氏が膝を交えて小さな話し合いの場を持ったことが出発点である。

鄭氏は牛山純一氏に私淑して日本語も堪能、このフォーラムの推進者である。日本側は木村栄文、村上雅道、原田令嗣（前NHK、現衆議院議員）、西世賢寿（NHK）各氏が中心となつていた。

会もオブザーバーとして参加。第4回目の今年から「日・韓・中テレビ制作者フォーラム」とし、十月揚州での開催となっている。

中国は社会主義国で「白髮三千丈」の国である。中国共产党や人民政府の要人たちが出てきて、張り切つてやや構えの大仰な大会になつた。観光バスはノンストップでパートナーが先導したほどである。

スケジュールは過密。夕食後も番組視聴や討論会と盛り沢山であった。問題は通訳である。中・韓間の通訳は二人しかいない。そのため同時通訳とはいえ、日本語を一回仲介せざるを得なかつた。もうひとつ、日・中間の通訳もレベルに差があり過ぎて、私たちも何回か絶句した。

順番からいようと、来年は日本が開催担当国になる。これまでの流れや各国の世話役団体の性格からいつて、「放送人の会」が、何らかの形で開催に関わらざるを得ないと思う。

規模は別にして、一応国際フォーラムである。NHK、民放連、ATPなど放送関連団体や組織、省庁や自治体など、行政レベルの総力をあげての協力・支援が求められてくる。

討論二日目に日本側の白井博氏（テレビマンユニオン）が、こう発言し

た。「番組は国家や組織がつくるのではない。飽くまで個人だということを確かめあうべきです」

白井発言で、私は「放送人の会」の発足の精神を思い出していた。

「組織・ジャンル・地域・世代の垣根を超えて個人の資格で参加し、交流し刺激しあつて活動し、豊かな放送文化の発展・充実を図る」といった言葉であろうか。

その精神の根底には、番組は組織や企業がつくるものではない。制作個個人の自由で豊かな発想とパッションがあろうか。

企業がつくるものではない。制作個個人の自由で豊かな発想とパッションがあろうか。

先日の放送ライブラリーでの催し「人気番組メモリー」で「欽ちゃんのどーんとやつてみよう！」をとりあげた。七十五年から十年間、爆発的人気をとりつけた番組は、常田久仁子という制作者の「欽ちゃんの眼の輝きに賭けよう！」という情熱が原点だったことを、大勢の参加者とともに感銘深く受け止めたのであった。

原点であるという思いがこめられている。

身のドキュメンタリストで、現、制作プロダクション、DOCUSOUL代表。大会顧問として、日本からは志賀信夫氏（放送批評懇談会理事長）河野尚行氏（元NHK放送総局長）も参加。

【エンタテイメント】「世界ウルルン滞在記」白井博氏（テレビマンユニオン）、「真剣！十代しゃべり場」滝沢昌弘氏（NHK）

参加者は、日本が二十四人、韓国が二十七人、ホスト国中国は四十五人。

今回のフォーラムの大テーマは「民族文化とテレビ制作者の使命」という

の流れの中で、テレビは自分たちの文化、生活をどう見つめて行くかということ。これにのつとつて、参加各作品の各ジャンルでサブテーマを設けた。

ドラマは「家族・倫理」、ドキュメンタリーは「環境・生活・人間」、エンタテイメントは「青少年とテレビ」。参加作品は各国、各ジャンル二〇三作品、計二十一作品。

日本から参加した作品と制作者は次の通り。

【ドラマ】「てるてる家族」若泉久朗氏（NHK）、「大好き！五つ子」荒井光明氏（ドリマックステレビジョン）、「白い巨塔」和田行氏（フジテレビ）

【ドキュメンタリー】「クマガイ草」小さな村の小さな奇跡の物語寺尾隆氏（南海放送）、「小さな町の大きな挑戦」ダイオキシンと向き合った川辺町の6年」山縣由美子氏（南日本放送）

【エンタテイメント】「世界ウルルン滞在記」白井博氏（テレビマンユニオン）、「真剣！十代しゃべり場」滝沢昌弘氏（NHK）

作品は、とりあえず内容が理解できる程度に、参加各國語をかぶせ、言語別に三つの視聴室を設け、自國語で全作品を鑑賞できるようになっている。作品は原則三十分にまとめるというこ

とであつたが、必ずしも守られておらず、他国の全作品を見るだけで時間はかかる。シンポジウムの合間だけでは足りず、連日夕食後も二十四時近くまで作品の鑑賞時間となり、それだけで皆さんお疲れさま。

シンポジウムは、ジャンル別に三つ、全体が一つ。視聴した作品をべーべーに、それらの制作者がパネリストの中心になり、会場の参加者との質疑応答も交わされた。

鵠沼海岸から⑭

災害報道に思うこと

川口幹夫

十一月に入つて和やかな日が続いている。温度も二〇度ぐらいでまことに気持ちがいい。夏の猛暑がやつと終つたと思つたら、台風が次々と来襲した。私の故郷鹿児島は、昔から台風銀座とよばれた。

戦後すぐにやつてきたのが「枕崎台風」である。枕崎の隣町が私の故郷「川辺」であるから、史上最高の風速53メートルの猛威はよく覚えている。

私の母校の中学校がペチャンコになつた。大谷川も大氾濫して田も

畑も人家も水浸しだった。

「あんなに激しいのはもうあるまい」と思つていたら、こんどは新潟、中越地震がやつってきた。

テレビで新潟の惨状を見ながら、平成七年一月の神戸の惨状を思い出す。

あの時は私がNHKの会長だつたから、激甚災害への対応がどんなに難しかか、身をもつて体験した。

難しいだけに、うまくいつた時のうれしさは又大きい。

あの時は、道路という道路がすべて破壊され、大阪から車を出しても一日

がかり、それも通行不能になるという状況だつた。

急を救つたのは大阪局の技術庶務の職員だつた。

「天保山（大阪）から神戸までの船を思い出す。

私はあの時のすさまじい状況と、そ

各ジャンル別のパネル討論の概要是次の通り。

【ドラマ】家族が主テーマということ

で、狙いや描き方等、驚くような新鮮さはなかつたが、設定やその世界には

各国の状況も見られた。ただこの時代、話題はやはり「韓流」に。中国でも韓国ドラマ「見てまた見て」などが大ヒット。韓国なりに、外部制作会社の参入と競争の激化、スターの出現、シンプルでにんげんの心を描く世界の

再認識、等の分析をしていた。やはり韓国に勢いを感じる。

【ドキュメンタリー】各国とも、印象的

な作品が見られた。環境、生活、人間というのは、現代どの国においても大きなテーマになつてゐることがわかる。自然環境、人間が変えようとしているもの、そして変わらない人間の本質、それらを時間をかけた取材で訴える。状況と思いは各国多少のタイムラグはあれ共通だ。なかでも、まるでそ

こいう時のために、こつそり契約して15トンの船があつた。この小船が一日何回も大阪神戸を往復した。機器を持つて運んだ。人員も運んだ。水も食料も運んだ。

神戸は局舎が壊れていた。車も動かなかつた。交通寸断で人も手配できなかつた。だから大阪からの船便は大きな救いだつた。

私自身も一日おくれで大阪に入つた。そしてその船で神戸へ行つた。神戸はまだ建物は倒れたままだつた。そこにもここにも大災害のあとが残つてゐた。

「NHKだから出来るんですよ！」とよくいわれる。高いチャーター料を用意出来るから」と思われている。でもこの時のチャーター料、まことに少ない額だつた。

「不意の時でもNHKはやらねばならないのです」という担当者の声に、船の持ち主は「やりましょう！」と安い値段で応じてくれたのだつた。

こにカメラがないような園児たちの自然で豊かな表情をとらえた中国の「幼稚園」に注目が集まる。

【エンタテインメント】テーマに沿つて、いわゆる「いい番組」が揃つてい

た。が、このジャンルではこれまでの番組制作の歴史の差が多少見られた。韓国に力作もあつたが、やはり日本の二作品には発想とバリエーションの広さが見られる。中国からの質問が集中したのは「真剣！十代しゃべり場」。

彼らの世界はない、司会なし、登場人物の多様さ、その自由なしやべりに驚き。俺たちにはまだ無理だな、というような表情も感じられた。

『今後に向けて』全体のシンポジウムでは、これから先、三カ国での共同制作へ話が及んだ。

そこで集約された考え方は、次のようないもの。共同制作をひとつ目の目標にしたい。ただ、一気にそこに行く前に、共通のテーマを見つけ、各国が競作して行く、又は、互いに他の国を訪ね、自分たちの目で撮りあう、といったところから始めてはどうか。素材のとらえ方や視点だけでなく、取材や制作の協力の仕方を含め、互いの共通点、差異点を認識しあうことによって次のステップに進めるのではないか。

次回には、その線で具体化への道筋を見つけよう、ということでした。

*今回のフォーラムのパンフレット、各団体の参加作品のVCDは、「放送人の会」事務局にあります。

期待される影像の力

日韓中制作者フォーラムに参加して

寒河江 正

熱烈歓迎、熱中学習。中国揚州での三日間にわたるフォーラムは暖かい歓

迎の中に、それを越えて共に学びあう熱い時間があった。

もの言うジャーナリズムは映す映像にある(白井博テレビマンユニオン代表)の発言どおり、テレビ制作者が集う共通言語は映像にあることを確認出来たフォーラムでもあった。主題はドラマ、ドキュメンタリー、エンターテイメントにわかれ、各自が自由に作品を鑑賞、ジャンル別に討論出来る仕組みだ。私はドキュメンタリーを選んだ。

中国のある幼稚園の通園生活を記録した「幼稚園」は制作者の子供への愛の眼差しが感じられる秀作だ。他に国際大賞など六つも受賞したドキュメンタリー作家の「薩馬閣の猿ルツサ」、長期にわたる記録でゴールデン・イー グル賞の「家に帰る道は遙かに遠い」など、鑑賞した参加作品のどれにも創り手の深い思い入れがあった。

今回のフォーラム開催までには、互いの歴史認識をめぐって激しいやりとりがあったと聞く。それを乗り越えての今回のフォーラムは、三ヶ国共同歩

調の第一歩だ。「多様な文化を認めあい、生活者共通の課題と解決に向かう」とこの映像対話(フォーラム)がアジア交流の広場に大きく育つことを期

待したい。

『随行雜感』 鈴木典之

躍進する中華の国の一端を垣間見たくて参加した。井の中の蛙なので会議以外の見聞もと欲張って、往路は、派遣団本隊とは別行動の大山代表の一

行に加えてもらった。上海から列車で南京に行き、市内を一巡してから揚州に入るというコースに魅かれた。これが当たつた。ハプニング続きの珍道中となり、刺激と笑いに満ちた旅になつた。

一行(大山、寒河江、磯村、鈴木)の内、中國語の実用会話が喋れるのは大山さんだけで、他の三人は金魚のフンだったが、上海空港から思いがけない助つ人が加わった。会議メンバーの一人・作家の大林女史で、彼女も中國語はわからず専ら英語なのだが、巧みな社交性と旅馴れた行動力の持ち主で、座を和ませると共に、急場の「救いの神」となつてくれた。艶な容姿と謎めく印象には中国人も弱いと知つた。

上海市内のホテルに宿泊できたのは深夜で、早朝六時には上海駅へ駆けつけた。発車一時間前に、という旅行社の指示に従つたのだが、行ってみて驚いた。行く先別に設けられた体育館のような待合室に既に人があふれていた。

南京市から揚州へは高速道路で一時間余り。揚州エリアに入ると風景も整然とし、田園に点在する農家にも裕福感が漲る。市街地へのインターに「歓迎」が書かれた看板があり、前国家主席・江澤民氏が双手で迎えてくれる。氏の

て、喧騒状態。既視感と現場感とが混ざり合つて、思わず身震いする。大山さんの機転で、出発前に座席指定乗車券を買っておいたことに全員胸をなでおろした。

上海から無錫を経て南京までは急行で三時間半。列車には車両毎に女性車掌がいて、新聞や観光地図の販売もある。副業なのか、しつこくすすめる。窗外は広くのどかだ。

南京は土埃の街だった。新駅舎の建造中で、駅前は掘り返され、案内表示もなく、埃の舞う迷路を右往左往する。大林女史の活躍のお陰で、オンボロ・バンの白タクをチャーターして市内に繰り出したが、どこをどう走つているのか、運転手と会話が成立しない。汚い車内に五人身を寄せ合つて、ひたすら窓外を眺める(事故のことがひらめいたりする)。着いた先は名高い南京大虐殺記念館。気が沈み頭も痛くなる。他の名所を回る算段はつかず

に、途中旧市街の中心で飲茶風呂食をとる。店の小姐たちの無愛想は聞きしにまさる。

南京から揚州へは高速道路で一時間余り。揚州エリアに入ると風景も整然とし、田園に点在する農家にも裕福感が漲る。市街地へのインターに「歓迎」が書かれた看板があり、前国家主席・江澤民氏が双手で迎えてくれる。氏の

出身地と知つたが、地元に及ぼす政治的威光の大きさを滞在中しばしば感じた。

揚州は風光明媚で古来名高い。李白は「煙火三月下揚州」と詠い、マルコポーロも「ワンドーランド」と讀んでいる。その象徴が瘦西湖の美観であり、鑑真和の大明寺だ。

日程最終日は市内觀光に当てられたが、パートナーの先導だったのにはびっくりした。中国では交通信号は無視さ

れ、車も人も幅広い道路を勝手に行き交つて見ていてハラハラするが、われわれのバスはパートナーに従つて、その雜踏を蹴散らして突っ走るのである。闇夜を瘦西湖でも、竹と石の庭「傘園」でも、文化と氣宇の壮大さに圧倒されるが、特有の霸權主義の臭いも感じる。それが中國の本質なのだろう。今回のシンボジウムの設営・進行にも、その氣配は濃かつた。

某月某日 アテネ五輪への旅

石井清司

オリンピックとはどうしても縁がある。開会式にからめた本も何冊か出せる。行けば何かが生まれる感じなので、アテネへも、ともあれ行くといった気持だった。

アテネにはどんな刺激があるのか。出たとこ勝負の旅だった。アテネへ日本からの直行便がなく、殆どがヨーロッパから前日一泊の乗り継ぎで、直前にいっせいに向かうので早くから満席。非常手段でアエロフロートを使い、モスクワでトランジット一泊で昼にアテネに入るやり方を編み出した。八月十一日午後二時に発つて六時過

ぎにモスクワの空港着。モスクワの空港は、客のことなど「物々ぐらいにしか考えないひどい所で、着いたらあつちへ行けこつち来いの放り出され立ち往生。薄暗い港内最端でのゲートから外へ出され、人気のない片隅でボツンとただ誰か来てくれば指示待ち。子供づれの母娘が一組、聞けば成田発アエロフロートの出発が二時間遅れ、モスクワで接続のエールフランスは待つていてくれず行つてしまい、パリにて行けない。何組かの客がそれ。モスクワに置き去りにされた客たちがひとまとめにされ、一泊を強いられトランジットのホテルへマイクロバスで連れられて行つた。まわりから人気がなくなり、デスクにたつたひとりいた係りのおばさんもついに去り、歩く人もいなくなつた。移動不能の状態でベ

ンチでひとり、四時間。午後十時半ごろ、帰ってきたマイクロバスで遠く離れたホテルへ連れて行かれた。闇夜を十五分、それはひどいホテルで冷蔵庫人、入れ墨をしている。持つていたカバンづめ一コと成田で買ったジュースひつが夜食の命綱になつた。翌朝午前七時のマイクロバスで再びモスクワ空港へ。アテネの空港へ着いた頃は、既に疲れ果てていた。

オリンポス山と白壁の家々の美しい町。何とか確保したホテルは市の中心シンタグマ（憲法）駅や同広場から少しほずれたところにあり、ますます。荷物もそここにタクシーで「IBC（国際放送センター）」へ。運転手の運転は乱暴で、走つている二〇分間、自分のケータイで大声でしゃべり続けた。以後どのタクシーも似たように騒がしいのが常で、帰りの空車分の金をよこせ、という雲助もいた。

世界の放送の四階建ての本拠ビル「IBC」は、世界のプレスの「IMC（国際メディアセンター）」と並んでおり、この五輪のために建てた。

地下鉄「イリニ」駅前に五輪のメインスタジアムがあり、ぐるりまわつたがひどい味。放送が忙しいので外へ行けず、終日何食もそれだけ。気の毒この上なかつた。こちらもそれから

ビルの心臓部へは滅多に入れないが、世界の元首やVIPが来た時など見せていくという。大規模のガラス面で内部の施設と作業が一目でわかる。四〇箇所の競技場から入つてくるIOC側が撮る国際映像のモニター群がびつしり、センター内にある各国の局のブースでその国際映像を自国語など自動的に加工し、またIBCへ送り戻されてくる。その数十のモニター群、HD映像のモニターなど含め二〇〇余の受像機群は壯観だ。

このセンター内に世界各国のブースがあり、一階の米「NBC」のものが最大、地下一階の日本のJC（ジャパンコンソーシアム）を中心にNHK、民放各局のブースも広いスペースを与えられていた。丁度、NHK会長や日本テレビ系列社長たちなどがJCを訪れていた。テレビ朝日やテレビ東京トップの到着はひと足遅れと聞いた。NHKの「HDシアター」が大通路沿いに一部屋確保しており、メガネ付きの立体映像と共に、LIVEやVTRで五輪映像を日に何回か上映しており、けつこう人気、何度か観に行つた。

そのビルの食堂はパスタがメインだったがひどい味。放送が忙しいので外へ行けず、終日何食もそれだけ。気の毒この上なかつた。こちらもそれから過密な日々となつた。

第4回 日中韓三国テレビ制作者フォーラム

in 揚州



会場・新世紀大飯店



江沢民の出身地 揚州市



主办单位
中国电视艺术家协会
中国扬州市人民政府
日本放送人会
韩国导演制作人联合会
韩国放送人会



协办单位
中国扬州市广播电视台
中国江苏省电视艺术家协会



開会式



志賀信夫氏



韓国・延世大学 CHUNG教授



テレビマンユニオン社長 白井博氏

提言をする村上雅通会員



日中韓 制作者達
左→3 南日本放送 山縣由美子さん



発言中の寒河江正会員



ドラマ分科会



エンタテインメント分科会



招宴



閉会式 大山勝美代表の挨拶

日中韓司会トリオ
右端 山田尚幹事



番組表彰式と楯



瘦西湖での舟遊び



鑑真和尚ゆかりの大明寺の塔



第2回人気番組メモリー

欽ちゃんの

ドンとやつて見よう

フジテレビ・75年～79年放送



欽ちゃん「次ッ！栃木県鹿沼市の和田義男の作品。息子＝母ちゃん、お風呂でスルメが泳いでいるよ。母＝バカだねえ、おばあちゃんに早く出でてくるよう、言いなさい！」と読んで「バカうけ」「ややうけ」「どっちらけ」の箱を見比べて「バカうけ」に入れる。ドッと沸く観客席をうつすカメラ。

当時「欽ドン」の裏番組は難攻不落の『8時だよ！全員集合』(TBS)。負けてもともとがふたを開けてみると一回目が17.8%、その後、31.1%の最高視聴率を記録した。欽

いい”創設の秘話、ラジオ出身の常田Pが『欽ドン』良い子・悪い子・普通の子』(フジ)、水曜が『欽ちゃんのどこまでやるの』(テレ朝)、金曜が『欽ちゃんの週刊欽曜日』(TB)。やや遅れて『日曜9時は遊び座S』。『欽ちゃんの週刊欽曜日』(TB)と並び、欽ちゃんは4・6・8・10の「テレビをつけなければ欽ちゃん」のG帯席巻を完成するのだが、いつたい欽ちゃん時代とその王国とは何だつたのだろうか。

欽ちゃんを真ん中にスタッフ(常田久仁子プロデューサー、竹島達修ディレクター)で始まつた(司会・大山勝美)。

「欽ちゃん！」と場内の大声援で欽ちゃん登場。往年の欽ちゃんファンたちの会場のノリは健在で、当時の公録風景の再現である。ここで氣の利いたバラエティー論を展開するのはヤボというもので、終始欽ちゃんのツッコミペースで沸きに沸いた3時間だった。

『�钦ちゃん番組』が演芸の笑いとは違う視聴者参加による茶の間の笑いへの挑戦などが紹介され、脱線がちな進行によつてかえつて『欁ちゃん番組』が演芸の笑いとは違う視聴者参加による茶の間の笑いへの挑戦などが紹介された。「欁ドン」はもともとラジオ(LF)パーソナリティーだった欽ちゃんの持ちネタだった。ハガキ・コミュニケーションにみる若者たちの笑いを非電視的なアイデアとしてテレビにあって誘導した勝利だった。

常田Pなどスタッフと欽ちゃんの愉快な応酬にテレビバラエティーの一時代をかいしま見た思いがしました。また担当番組を回想し発言されたのも印象的で、ジムショ・オリエンテッドの今とはちがい、もの作りの心意気が感じられる時代が走りぬけた、そんなあつたかい一日でした。(編集部04・11月13日於・横浜情文ホール)



(常田久仁子プロデューサー)

南北馬船

「夢しつかりと しなやかに」

「民教協・二つの研究協議会
に出席して」 酒井 昭

この春と秋、民間放送教育協会（民教協）の東北北海道地区（盛岡）と九州・沖縄地区（那覇）の二つの研究協議会に出席した。

殺伐とした現代社会にあって、心の大切さを訴える大会のメインテーマ「夢しつかりと しなやかに」に大きな関心を抱いたからである。

二本柱であることは共通していたが、一方が精神科医の斎藤環さんの「ひきこもる若者、キレる若者」は言ってみれば、反社会化と非社会化に分類できるが、これはコミュニケーションを軸にした考察であると述べ、臨床医らしい觀察を披露していた。いわば外からの觀察である。

これに対しいま一つは盲目の歌手・新倉勉さんが、自己の生きざまを語りながら「夢に向かうということ」を熱つ

ぼく語っていた。内と外の違いはあるにしても現代人、特に若者の心を癒す方法論は似通っていたように思う。

私はこれまでも職責上、各種の講演会に度々顔を出してきたが、今回ほど強い感銘を受けたことはないといってよく、未だに両氏の面影と講演の内容が脳裏に残っている。

これは頭で理解し評論風なスピーチ

とは違い、実際に若者に接している体験からきている講演だからだ。会場の聴衆にしてみても「理論信仰」と「実感信仰」の二つを居ながらにして享受された心境になつたのではなかろうか。

两会場とも500人ほどの集まりであつたが、その9割は中年の女性が占めていた。おそらく家庭教育の一環として生きた学問をしたいという意欲の表れと推察されるが、まさに熟年女性のパワーを見せられた思いがする。

民教協は昭和37年（1962）学校番組のネットワークの任意団体としてスタート、42年（1967）に文部省

（当時）から財團法人の認可を受け、全国のテレビ先発局でスタートした。

「日本映画」放送枠のすすめ

原田庸之助

民教協は昭和37年（1962）学校番組のネットワークの任意団体としてスタート、42年（1967）に文部省（当時）から財團法人の認可を受け、全国のテレビ先発局でスタートした。

「放送人・二〇〇四夏」という特集欄の原稿依頼葉書を受け、「チャンバラ」のことを書きましたが、松尾さんからテレビ時代劇についても「おまかせください」と注文をうけました。書け、その半分近くが時代劇ですから、

キ一局はテレビ朝日で文部科学省の助成金を得て、生涯教育のための『親の目子の目』を制作・放送してきたの

でご覧なつての方も多いのではないか。

東・中部・北陸・関西・中国・四国があり、全国を4ブロックで構成、それぞれ研究協議会を運営している。これらを網羅する形で、年一回全国大会が開かれる。今年（2004）は5月に熊本で開かれた。

さて、地方局にこそ良心があると言われて久しいが、デジタル時代に突入した現在、ソフトの供給源は喫緊の課題であることは言うまでもない。

民教協が優れた番組を作ることはもう数作って欲しいと思う。

二つの研究協議会に出席してみてそのことを今、痛切に感じている。

（民放連 常勤顧問）

それらについて何か書いても手前味噌になるから止めます。

さて、わたしの提案になりますが、現在テレビ各局は週一回の映画放送枠をもっています。大半はアメリカ映画で、主にサスペンスアクションで、007シリーズやシユワルツネッガーものなどは何度も繰り返し放送されています。なぜ日本映画枠はないのか？

わずかにNHK-BSS2が日本映画を不定期にやります。少し前に、小津安二郎特集として、小津さんの作品をあらかじめ放送しましたが、その他にも

昼夜の時間帯で「旗本退屈男」や錦ちゃんのチャンバラ映画などを思い出した

ようにやります。

双葉十三郎さんが「外国映画五〇〇本」について「日本映画三〇〇本」

☆人がみな同じ方位に向いて行くそれを横より見ている心（石川啄木）

（いすれも文春新書）を出版しました

が、懐かしくて早速読みました。今で
も観たい作品がたくさんありますね。

なんといつても昭和の戦前には、大河
内傳次郎、坂東妻三郎、市川右太衛門、
嵐寛寿郎、片岡千恵蔵、月形龍之介、
林長二郎など、大スターが並列し、次
々に作品を送り出していたわけで、双
葉さんの選にもれた娯楽作品が沢山封
切られています。わたしも含めて当時

の観客はそれぞれ最頂のスターを求め
て、活動写真館にかよったわけです。

時代劇に限ってみても（戦後の作品
も含めれば）無数に旧作品が眠ってい

ます。日本映画放送枠が出来れば、思
わざる話題が生まれ、逆流して映画界
にも刺激を与え、また食わず嫌いの若
者たちの関心を呼ぶことになるでしょう。
いかがでしょうか。ただしこれは
制作の問題というよりは編成の問題で
す。放送人の会のメンバーで、この考
えに賛同して下さる方が多ければ幸い
です。

（元テレパックP）

朗読劇「戦艦大和の最期」

伊藤雅浩

吉田満著「戦艦大和の最期」は奇跡
的に生き残った学生士官による貴重で
精密な名著として有名ですが、これを

☆後の世と聞けば遠きに似たれども知らずや今日もその日なりとは（詠み人しらす）

☆InterBEE 2004

放送人の会 パネルディスカッション

私が伝えたい 戦場と人間の記憶

恒例の幕張トークセッション、今回は殺され
ば殺される極限状況下の戦場映像をなぜ追い求め
るのか、隠された戦場と放送について討議した。

（於・04・11月18日 幕張メッセ会場）

証言 五十嵐公利（NHK 解説主幹）

野中章弘（アジアプレス代表）

本橋成一（写真家・映画監督）

司会 今野勉

国際放送機器展（Inte-BEE）の今回の
テーマはハイテク最新技術の展示と使
われ方をめぐるセッションだった。

戦争報道、とくにアフガン、湾岸、イラ
ク戦争以降は夥しい「戦場報道」が氾濫
し、戦場中継がそのまま茶の間に直行
になりました。毎日新聞と読売新聞に
紹介記事が出てお気づきの方もあつた
かと思いますが、劇場は定員三百名。
関係者だけであつという間に満員、チ
ケットの奪い合いになりました。

当日、ゲネプロを公開したのです
が、そこまでは照明も映像もきつかけ
の確認が精一杯、本番はどうなるのか
と心配しましたが、さすがにバッヂ引
きめて、お客様に「感動しました」
「よかったです。再演してください」と嵐
のようなお褒めを頂きました。褒めら
れたのはほとんど大山氏のおかげです
が、いい体験をいたしました。

湾岸戦争の頃バグダットにいた五十
嵐氏は、地域化した国際紛争に国連の
無力化、9・11以降のアメリカの宗教
国家のような保守化傾向の中で現れる
映像の非常識性、戦略性をみてとる。
また野中氏は、撮る者がどっちの側か
ら写しているか、インデペンデントな

取材から一貫して被害者映像にこだわっ
てきた立場から、氾濫する戦場映像に
大きな違和感を覚えるという。

誤爆による悲惨な現実をアクション
トとし、ネセサリーコストとして折り
込みずみの歪んだ映像のままでいいの
か。五十嵐氏もまた、「神は細部に宿り
たまう」として報道の取材者は「事実」
を際限なく集める、いわば「枠組み症候
群」に陥ってはいいなか、と現場のとま
どいをかくさない。

一方、幼時体験としての東京大空襲を
実感した本橋氏は、海外取材撮影の原
点を今なお、そこに置いていると言う。
戦前の平和なイラクの子供たちを写
すとき、空襲前の（戦時とはいえない）
ときの平穏な東京の子供たちを重ねた
という。瓦礫の山に行き来するイラク
の子供たちと焼け跡のバラックでえた
平和のあたたかみ、それをつなげる作
業をしてゆきたいと。

結びとして司会の今野氏は、自作のド
キュメント「真珠湾奇襲」ルーズベルト
は知っていたかの取材秘話を紹介し、
戦争から戦場にいたる過程で大きく隠
されている非情な歴史の影を見つめる
視点を提示し、最後に野中氏は「われわ
れが共有できる記憶を映像化できるか、
難しい点だが、記録と記憶のむすびつ
きで技術による情報の危うさを克服し
てゆきたい」と結んだ。

イラク映像を挿入しつつ語り合う充実
した3時間でした。

（編集部）

放送人の会 会員フォーラム

第一回 横沢彪さん登壇!

『要旨』「放送人の会」に入会はやほやですが、トップバッターとしてふだん感じていることをお話ししましょう。

フジに34年いまして現在は吉本興業でお笑いタレントと放送を結びつける仕事が中心ですが、放送メディアと視聴者(特に若い人たち)の関係性が激変していることに気づきます。

例えば私は一方で鎌倉女子大で教えていますが、彼女たちはラジオとの接点が全くありません。ラジオ関係者は反論するかもしれないが、ラジオ体験を通過していない世代の登場です。では何をしているのか。パソコンとバイトとケータイのメール交換、これが彼女たちの日常のです。そこに、そこそここのテレビが入ってくる。それが現代の第何次かのお笑いブームの基層部分なのです。

いまのお笑いはライブハウスや小劇場や小ホールで汗をかいていたグループのブレークが前提です。それを見てテレビ局はおつかなびっくり拾つてみると意外に数字がとれる。だから大手プロも月謝とつて養成学校を作る。

つまりお笑い内容が激変してきたのです。例えば「ネタ」の画面にショッちゅうスパーを入れる。スパー無しだと若い人は理解できないのです。試み

に女子学生たちに80年代マンザイブームの折りの保存テープを見せ、仲介・竜介ややす・きよ・ツービートなどの芸を

問うと、「先生、早口で何言つてますのか

全然ワカンナイ」

トークや会話とはもともと物語性があり、おけさにいえば歴史性を秘めているものです。そうしたつながりを

「早口」だとして、若い人々は受け入れる能力を失いつつあるのです。そこで分かりやすくマンガの吹き出し的にスッパーを入れ補完するわけです。

我々からすれば「あのスッパーは何だ」と思いますが、若者には必要不可欠なんですね。

我々の時代のお客さんは、何かをしながらでも時に、しっかりみて感動したりする。見るツボを心得ていてお客様でした。いまのテレビはどんどんスッパーをふやして若者レベルにあわせようと必死です。

他愛もない瞬間芸の、芸ともいえない存在としての友達感覚的タレント、疑似アイドルとしてからかいの対象になつて彼らのパフォーマンス。だからこそ「笑いでしかいやされない」彼女たちの時代なのです。

「テレビを吉本化した」といわれる私には、気になる事態です。さきほど歴史感覚の欠如などと言いましたが、番組を作つてゐる人たちにも歴史的考察が欠けているようです。因果関係や人の前歴はこうだ、故事來歴、いろいろなかたちがあり、時系列的に物事を考える、物事を歴史的に見て考えるとはそういうことです。総じて若い人々は歴史が二ガ手です。現場にはIQが高く小器用に商品化する人は多い。

結論としては、多様化するメディア状況にあって、ジャーナルな娛樂機能を問う独自の企業イメージだけは保ちたいと思っております。

(9月28日 青山荘にて)

バラエティー関連の番組で露出している二人組やトリオはしゃべくりでなく、介ややす・きよ・ツービートなどではパフォーマンスでわかる

葉だけで笑わせるのは難しい時代です。

中途半端なそこそこの腕前をもつたお笑いタレントはどんどんでてくるでしょう。その人たちの5年後10年後はどうなるか? 多分ほとんどの消えてる運命にあります。

他愛もない瞬間芸の、芸ともいえない存在としての友達感覚的タレント、疑似アイドルとしてからかいの対象になつて彼らのパフォーマンス。だからこそ「笑いでしかいやされない」彼女たちの時代なのです。

「テレビを吉本化した」といわれる私には、気になる事態です。さきほど歴史感覚の欠如などと言いましたが、番組を作つてゐる人たちにも歴史的考察が欠けているようです。因果関係や人の前歴はこうだ、故事來歴、いろいろなかたちがあり、時系列的に物事を考える、物事を歴史的に見て考えるとはそういうことです。総じて若い人々は歴史が二ガ手です。現場にはIQが高く小器用に商品化する人は多い。

結論としては、多様化するメディア状況にあって、ジャーナルな娛樂機能を問う独自の企業イメージだけは保ちたいと思っております。

新刊紹介

『テレビの嘘を見破る』

(新潮新書 700円)

今野勉著

渋谷。大盛堂がサラリーマンや東

大駒場など学生相手の本屋だった。今は駒場もだが、桜ヶ丘町一帯の坂道に

たむろするIT関連、映像のエンチャ

ー企業や専門学校に異色映画館ユーロ

スペースに集まる高感度な若者たちが

愛好する本屋、それは渋谷村の東急本

店前の某大型店だ。そこに各出版社の

新刊新書がコーナーを占めている。

「テレビを吉本化した」といわれる私には、気になる事態です。さきほど歴史感覚の欠如などと言いましたが、番組を作つてゐる人たちにも歴史的考察が欠けているようです。因果関係や人の前歴はこうだ、故事來歴、いろいろなかたちがあり、時系列的に物事を考える、物事を歴史的に見て考えるとはそういうことです。総じて若い人々は歴史が二ガ手です。現場にはIQが高く小器用に商品化する人は多い。

結論としては、多様化するメディア状況にあって、ジャーナルな娯楽機能を問う独自の企業イメージだけは保ちたいと思っております。

(松)

六〇年代ドラマ「実験と多様性(一)

久野 浩平

60年代に入り活躍したドラマディレクターたちの「証言」の続きです。まず、大山勝美さんです。

一九五七年、テレビ開局一年後のラジオ東京(現TBS)入社、一貫してテレビの制作現場で活躍してきました。入社当時の熱気から語りはじめます。石川甫、橋本信也、先頃亡くなつた岡本愛彦さんたち初期テレビドラマの巨匠たちの思い出、数年後「dAの会」の後輩たちからの強い刺激など…。

五九年、大山さんは『慎太郎ミステリー』を担当、様々な新しい方法論での実験を試みます。

「変わったアングルで撮れ、科白も感情抜きで喋れ、とかですね。また写真(スチール)を挿入してみたり、とにかく実験精神に富んだ方法論にののす」

くこだわり、惹かれていたのです。

しかも題材が『慎太郎ミステリー』という現実離れした超能力の話だと(中略)だから非常に異常なアングルから撮つてみようとするものがちょっと不思議に見えてきますよね、だから意識的にそういう手法で毎回毎回やって驚かせてやろう、という気持ちが一杯でしたね」

その後、連続ドラマ『鏡子の家』、芸術祭参加作品『若者一揆の場合』、受賞作『正塚の婆さん』『民放流の大河ドラマ「真田幸村」』や『檜家の人々』など数々のドラマの思い出が語られます。

大山さんの「証言」全体に通じる主題には「テレビドラマとは一体何なのか」という問いかけと模索があります。

「テレビドラマはジャーナリズムでなければならぬ、といふやや社会派的

思考からチャエフスキーの理論と出遭つたときの興奮。それに続く向田邦子、早坂暁さんたちとの仕事。ながんすぐ岸辺のアルバム『ふぞろいの林檎たち』など、山田太一さんの作品を通じて日本性の中に発見されるテレビドラマの本質などが話題になります。

次は 小川秀夫 さんです。

小川さんは五三年文化放送に入社し、ラジオドラマ一筋の制作者でしたが、五八年、フジテレビ設立と共にテレビに移行。小川さんもまた、開局と同時に担当したシリーズものドラマ『三行廣告』でテレビドラマの様々な実験を繰り返します。科白の様式化、ノンセットのドラマ、一人称ドラマなどなど…。

「まず考えたのは小さい受像機に三〇分を一体、どういう風にしたら面白くなるのか。それにはとにかくこの無駄なものを削ぎ落とし、いわゆる短編小説のように凝縮したものにしなきゃならない。どれだけ簡潔にしていくかどうかという…」

小川さんの「証言」では、そのあと『直木賞シリーズ』『シオノギ劇場』などのディレクターとして、またプロデューサーとして数々の大作の思い出が語られるのですが、その一つ一つに最後まで変わらない実験精神が横溢していることに感銘を受けます。

岡田太郎 さんも五四年、文化放送入社直後は送り出し(放送指揮班)の運行業務に専念してゐるうち五八年、開局を前にしたフジテレビへ移行。希望したドラマディレクターを志します。

岡田さんの「証言」も、社会現象化した層メロの元祖と言われた『日々の背信』(六〇年)をはじめ、『NEC劇場』『プリンス・スター劇場』などの数々の作品の裏話に及び、興味深いものがあります。

次は 小川秀夫 さんです。

八橋さんは三期生出身で、新劇の世界から開局当時のNET(現テレビ朝日)に入社し、ドラマ演出家になります。

八橋さんは語るには何と言つても六

二年からは二百回に及んだ『判決』シリーズです。差別や大学入試問題、薬事問題など現実の事件に求めたシリーズは手とか足のアップで芝居をさせるとかですね…」

松本明 さんは京都大映企画部を経て五七年、OTVに入社します。

「まず料理番組や音楽番組を手掛ける一方で雁之助兄弟の公開コメディーを担当したりの開局時の状況から入りま

す。五九年にOTVはABCとMBSに分かれ、松本さんはABCの中心ディ

レクターとして活躍することになります。そこでは作家の花登篠さんについて、また『女の劇場』シリーズなど。そして『天保つむじかぜ』『悪一代』などABC独自のピカレスク時代劇誕生の経緯に触れていました。

「テレビで放送するものは(何でも)テ

レビドラマだというのは間違ひだ(中略)稽古が必要なのがテレビドラマで金員が揃つて稽古できる条件があつてのテレビドラマでしようね」

そして 遠藤利男 さんですが、紙数が

尽きました。次号は遠藤さんからはじめることにします。小さなサイズの画面と格闘したテレビ一代目世代の青春

ははじまつたばかりでした。

これらの作品の延長上に周知のよう

に「必殺仕置人」など暗い照明の「必殺

もの」シリーズが生まれたのでした。

会員名簿 2004・8・1現在

2004・8・1現在

木村成忠 木元教子(く) 楠美昌

難波秀哉（に） 新村もとを

田中韓の
略傳

(あ) 合川明	青木裕子	赤井朱美	工藤英博	国枝忠雄	(二) 小出五郎
秋田完	新井和子	有馬哲夫(い)	児玉久男	児玉孝光	後藤多聞
石井清司	石井ふく子	石高健次	齊藤晋	今野勉(さ)	齊藤伸久
石橋冠	磯野恭子	磯村健二	齊藤守慶	齊藤秀夫	野田宏一郎
市岡康子	一色伸夫	伊藤雅浩	齊明寺以玖子	(は) 萩野靖乃	信井文夫
井上欣也	井上良介	岩澤敏	寒河江正	坂元良江	橋口義春
岩下恒夫	(う) 上田千秋	上野満	桜井元雄	迫田朋子	林勝彦
碓井広義	歌田勝彦	宇野昭	佐々木欽三	佐々木彰	林裕史
生方恵一	浦田彰	(え) 江口展之	佐藤利明	沢口真生	原田庸之助
遠藤利男	遠藤ふき子		沢田隆三(し)	澤田隆治	原由美子
清水 満	下川靖夫	下重暁子	藤井 潔	藤井千ズ子	藤代勝博
			藤井晋也	藤久ミネ(ほ)	星田良子
			堀川とんこう(ま)	松浦幸一	
			松尾羊一	松田輝雄	松平定知

の文化的磁場といった集まりの可能性を信じ、かけてみたいと思います。

さて、編集部では『会報』の隔月刊

行化をめざして検討中であります。従

新編小説

來の季刊誌にては、二月を重ねて、三月に亘る、三月の三月の連

を捕捉できず、また運転企画ものの運

続性が及ばない憾みがあるからです。

サロン的心情の交換の場から一步進ん

「ダススタイルを考える時期にきているか

卷之三

皆様の企画提案を期待します

續集部

◎ 新会員紹介

明治の政治小説

左詰の方々が入会しました

曾根英一（山陽放送報道部長）

酒井 昭（民放連常勤顧問）

入会希望者がおりましたら)一報

「アーリー」。ノルマニア船の船主二十。

かさい
入会案内書を送ります

◆事務局は月(北村)・水(野崎)・金(伊藤)のシフトで連絡をお待ちしております

◎ 新会員紹介

左記の方々が入会しました。

曾根英一（山陽放送報道部長）
酒井昭（民放連常勤顧問）

入会希望者がおりましたらご一報ください。入会案内書を送ります。